

## 遠隔授業のすすめ

倉敷市立精思高等学校  
土肥 直樹

### 自己紹介

岡山県立倉敷青陵高校	教諭
岡山県立鳥城高校	教諭
岡山県立精研高校	教諭
情報教育センター	指導主事
総合教育センター	指導主事
倉敷市立精思高校	教諭
岡山県立岡山聾学校	教頭
総合教育センター	情報教育部部長
倉敷市立精思高校	校長



本当の専門は  
**理科（生物）**

### 自己紹介

岡山県立倉敷青陵高校	教諭
岡山県立鳥城高校	教諭
岡山県立精研高校	教諭
情報教育センター	指導主事
総合教育センター	指導主事
倉敷市立精思高校	教諭
岡山県立岡山聾学校	教頭
総合教育センター	部長
倉敷市立精思高校	校長

今日の話はここで  
取り組んだことが  
中心  
(15年~20年前くらい)

### 遠隔授業との出会い

- ・「こねっとプラン」(You are the one.)
- ・へき地学校高度情報通信設備(マルチメディア)活用方法研究開発事業(平成11年~平成13年)【文科省】
- ・I S D N回線を使ったT V会議  
(128kbps~384kbps)
- 電話2~6回線分  
品質は安定  
H.320という規格

### 遠隔授業との出会い

- ・3県連携交流事業(平成16年~平成18年)【岡山県】
- ・L A Nやインターネットを使ったT V会議(384kbps~)  
品質の保証がない  
ルータを超えることができない(同じネットワーク内)  
H.323という規格
- ・J G N II (N I C T)を活用したT V会議(約60Mbps)  
高品位のT V会議(高画質、遅延もほぼない)  
D V over I Pという規格

### 私の経験した遠隔授業

【精研高校】日本原高校、中川小学校、岡山聾学校、大原美術館、大倉庫(岡山)大師高校(神奈川)、新川高校(北海道)、小笠原高校、東京農業大学ライオン(株)、東陶機器(株)、厚生労働省(東京)、十日町小学校(新潟)、ヘネコポール高校(アメリカ)、テマセクポリテクニック校(シンガポール)・・・

【瀬戸南高校】倉吉農業高校(鳥取)、人と自然の博物館(兵庫)【倉敷中央高校】鳥取聾学校(鳥取)

【玉島北中学校】船岡中学校(鳥取)

【吉野小学校(作東町)】兵庫県立大学ほか

【倉敷天城高校】昭和墓地(南極)【操明小学校】ケニア

【精思高校】倉敷翔南高校(岡山)

## 実践したこと

実は・・・



私は授業していないのです。

- ・ 機器設定やネットワーク管理
- ・ 企画の提案

## 実践したこと

精研高校 ↔ 日本原高校 (H11~H13)

家庭・食物、食品「チーズ・ジャムづくり」(精研へ)

- ・ 日本原高校の農業教員が授業
- ・ 10時間程度/年
- ・ 学科間を超えた専門性の高まり
- ・ 食品に対する好奇心の向上
- ・ オンライン、オフラインによる教員間、教員-生徒のつながり



## 実践したこと

精研高校 ↔ 日本原高校 (H11~H13)

家庭・課題研究「手話」(日本原へ)

- ・ 精研の家庭科教員が授業
- ・ 1年を通して
- ・ 自校で実施できない学習
- ・ 動作の必要な学習でも可能
- ・ 制限があることで伝えようとする意識
- ・ オフラインの授業で感動



## 実践したこと

玉島北中学校 ↔ 船岡中学校(鳥取) (H16)

社会「山陰と瀬戸内の気候の違い」

- ・ DV over IPを使った実践
- ・ 他校への発表をわかりやすく工夫
- ・ 実物を見ることによる深まり
- ・ コミュニケーション能力の高まり
- ・ 授業以外での関わり合い



## まとめ

遠隔授業によって

**地域・地域外の教育資源を活用できるようになる。**

- ・ 授業の設計をしっかりと(トラブルも想定して)
- ・ 交渉力をつける(相手の仕事を中断することも)
- ・ 打ち合わせを入念に(ねらいは何か)

## まとめ

コロナ禍でリモートが普及

- ・ 特別な機械は必要なく簡単に接続
  - 機器の操作は自分でできる
- ・ 無償で使用できるものもある
  - 遠慮せずどうぞ
- ・ 一般にも普通に使っている
  - どこからでもだれとでも

## さいごに

### 4. 展望

今回の事業は、ほとんどの授業を 384kbps の電話回線で接続することにより、映像の動きもスムーズで、音のとぎれのない授業実践ができた。しかしながら、それに関わる通信費も莫大(100～200万円/年間)であった。

特別な場所だけでなく、一般的な家庭まで広帯域な回線が導入されるブロードバンド時代がすでにやっけてきている。やがて、インターネット経由でのTV会議システムが安定し、低コストで誰でも利用できるようになってくるであろう。

本事業は、特別な環境にある特別な学校での取り組みではなく、それに先がけて行った試行的な取り組みとして見ていただきたい。

平成11・12・13年度へき地学校高度情報通信設備（マルチメディア）活用方法研究開発事業成果発表会資料より

ご清聴ありがとうございました